

## 2. 就業係数・雇用係数

就業（雇用）係数は、従業（雇用）者数を当該産業（部門）の生産額で除して求めたものであり、1単位（100万円）の生産を行うために直接投入された労働量を表している。

例えば農林水産業の就業係数は0.3568となっているが、これは農林水産業で100万円の生産額をあげるのに約0.36人の従業者が直接必要であったことを示している。

なお、農林水産業の雇用係数は0.0491であるので必要とされた従業者のうち約0.05人が雇用者であることを示している。

産業別に就業係数をみると農林水産業0.3568、商業0.2053、サービス0.1127が高くなっている。

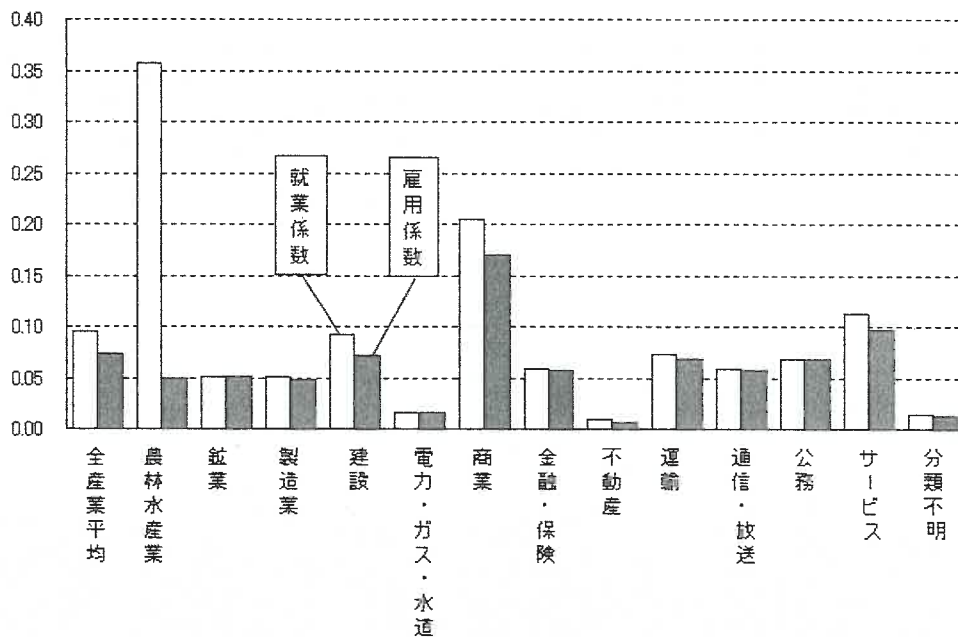
逆に就業係数が低い産業は不動産0.0096、電力・ガス・水道0.0164、製造業0.0505であるが、これらの関係は従業者1人当たり生産額と逆の関係になっている。

なお、不動産の係数が低い理由は帰属家賃の計算による。

一般的に就業係数が高い産業（部門）は労働集約型産業で、低い産業（部門）は資本集約型産業といえることができる。

農林水産業において就業係数と雇用係数に極端な差があるのは、特に耕種農業や畜産部門において個人業主や家族従業者が他の部門に比べ多く投入されているからである。

図5 産業別就業係数、雇用係数



(注) 就業係数 = 従業者数 / 県内生産額

雇用係数 = (有給役員数 + 雇用者数) / 県内生産額